

## 銚子川 岩井沢

大野

【日時】2007年7月28日～30日

【メンバー】大野、佐貫、笹川

7月28日（土）晴時々曇

海の日連休は、広倉沢に行く予定であったが、台風が来た。その憂さ晴らしに、梅雨明けを確信して休みを確保し、光来出東又を目指した月末だが、前線は日本列島から消え去らず。新潟方面は諦め、かねてから転進先として考えていた岩井谷を目指すことにした。

21:30日比谷集合で、霞ヶ関から首都高に乗るも、激しい渋滞。やけにトラックが多い東名をひた走り、あれやこれやで、道の駅海山で仮眠したのは4時半を過ぎていた。

睡眠不足だし、強いパーティーでもないので、三平滝までの下部はカットすることにして、のんびり出発。7時半に目を覚まし、準備をして出発。国道から外れ、銚子川沿いの細い林道に入ってしばらく行くと、突然、目の前の林道がなくなっていた。50mほどにわたり、跡形もなく崩壊しており、絶句。ちょっと戻って車を置き、ガチャ類を装着。なぜか犬の散歩をしていた小父さんに、発電所までどのくらいかと聞くと、すぐそこという。崩壊地点に立って先を見ると、すぐ先に小さな建物があつた。



【中流部のゴルジュ帯】

発電所にあまり人の気配はなく、導水管は立入禁止のフェンスの中だったので、急な斜面の踏跡を登っていく。堪らなく暑い。汗が噴出し、頭がクラクラする。1時間の登りで峠状の所に出た。荷物搬送用のモノレールは峠を越えて岩井谷方向に下っている。さらに40分ほど尾根の踏跡を登ると、岩井谷が近づき、10mの滝が見える所から下っていく。2時間強の大高巻きで、ようやく沢に降り立った後は、皆、水をがぶ飲みしたことは言うまでもない。

さて、この10m滝を右から巻いたのであるが、意外と悪かった。お助けを使ってトラバース気味にルンゼに入り、変則懸垂で小尾根に這い上がり、沢に戻ったときには1時間もかかっていた。その先しばらくは、美しいゴルジュを豊かな水が流れるきれいなところ。5月では辛かろうが、1.5mのギャップも飛沫を浴びて楽しく突破。小瀬谷を越え、水につかれば容易に突破できるゴルジュをいくつも越えると、右から沢が入り、正面は滝状に大きく立ち上がる梅ノ木谷出合いに着いた。

眠いので、ここで切り上げ、出合い手前の河原にテントを張った。大増水には耐えられないと思うが、流木も豊富にあり、気持ちよい幕場となった。惜しむらくは、私の腕では、ウグイだかハヤかの10cm前後の魚は釣れてもアマゴの姿を拝むことができなかったこと。

7月29日(日) 晴時々曇

あまりの快適さに少し寝過ごし、6:10出発。本流はいきなりの連瀑帯となる。最初の滝と次の滝を左から巻いて超えると、大きな滝となる。記録によっては多段100mの大滝ともされるが、それぞれの滝は独立している。最初の2段の滝は、ちょっと欲を出して直登を試みる。簡単そうに見えた右壁を登っていくが、途中の一步が意外と悪いので、ロープを伸ばす。落ち口からの上段は簡単そうに見えたので、佐貫さんにツルベでリードをしてもらうが、途中で行き詰る。いろいろ苦労した末、ザックを木に括り付けて強引にモンキークライム。さらに、落ち口に至るバンドを見事にリード。それほど難しくはないが、高度感もあり、会心のリードとなった。

続く斜瀑も登れそうな気もしたが、右のルンゼから巻く。幅広の滝は右側を簡単に巻ける。沢は一旦弛み、小滝を越すと、15m滝は右側を簡単に登れる。

その先の滝が最大の難関となった。細長い釜の右側を微妙なトラバース3歩で直下まで行き、1m強引にシャワークライムして、変則CSの上に乗る、左の凹部を登ったのであるが……。最初のトラバースで笹川さんドボン。佐貫さんはトラバースを何とかクリアするものの、シャワーを登れず、ドボン。二人のザックを荷揚げして再チャレンジ。佐貫さんは何とかクリアしたものの、笹川さんは再度ドボン。釜の中から「たすけて」と唇。慌てて飛び込み、足の立つ所まで引き寄せた。少々水を飲んだ様子。淵は3m程で変な流れもなかったが、ザックなしだと注意が必要だ。震えが収まるまで暫し休憩。笹川さんの気が萎えるのを恐れたが、流石にトマの女性は根性がある。再挑戦で何とか突破。後で記録を見ると、ここは右壁を登って巻くパーティーが多いが、かなり苦労しているようなので、同じ苦労するなら直登した方が楽しい。凹からは簡単そうに見え



たが、逆層で意外と悪 **【最大の難関】**  
 かったので、ロープを伸ばした。4級-の岩登りが5m。

ここで大きな滝場は終わるが、続いては岩井谷ゴルジュ編。それほど圧迫感のないゴルジュに淵と小滝が連続し、泳ぎを駆使して、殆ど水線通しを辿ることができ、楽しい。

やがて、右から沢が入り、左を見ると小さな枝沢が滝となっている。十字峡という名前の立派さに、思わず笑ってしまう。小滝を少し超えると、綺麗なナメ床となり、前方に巨大な滝が現れる。奥の大滝90m? 右側に壁を張り巡らせたとても立派な大滝である。滝の下はナメで筆舌に尽くし難い気持ちの良さである。左のルンゼから取り付き、急な斜面をうまくルートを拾って登っていけば、それ程の困難なく、沢に戻る

ことができた。この後も幾つかの滝を登ると、溪相も穏やかになり、終わりかなあと  
思うが、まだまだ滝とは続いた。直登に拘れば結構登れるので楽しい。

1020m付近は狭いゴルジュ。何とか中を行けないかと粘ってみたが、最後の5m程が  
登れず、大分戻って左岸側を高巻く。長いトラバースだが、それ程の困難はない。正  
面の枝沢を見送り、左に入ると再度滝場。30m程の滝を右壁から登り、最後は右のヤ  
ブに逃げて落ち口に至ると、沢は平穏になった。

一升瓶のゴミが散らかっているのは興ざめだが、明るい森の中にナメが点在するデ  
ート沢となる。1276北のコルを目指して広い枯れ沢に入り、下草もなく、あくまで明  
るい森の中を登っていく。と、後ろからゴロンという音と悲鳴。100kg以上はある岩  
に足を挟まれ、「重い・・・」と笹川さん。佐貫さんが動かそうとするが、ビクとも  
せず。二人がかりでほんの少し隙間を広げ、足を抜いてもらった。「やはり二人の山  
行は危険だ・・・」。幸いなことに、重たかっただけで怪我はなかった。

相変わらず下草のない明るい森をコルまで進み、そのまま反対側の沢に入る。しば  
らくは快適だが、1150m付近から伐採地となり、山の生傷という感じで痛々しい。林  
道直下に、キャンプ場を見つけ、テン場とする。薪は無限にあり、楽しい焚火となっ  
た。

7月30日(月)曇一時雨後晴

4時起き6時出発とするが、空は暗い  
色のままだ。しばらく林道を辿り、1344  
に向かう沢を辿っていると、雷鳴と共  
に大粒の雨が降ってきた。伐採地で隠  
れるものない所での雷は恐ろしかった  
が、幸いなことに、1344から南下する  
尾根は木が生えていた。下草がないの  
でしばしば分かりにくくなるが、しっ  
かりした踏跡がついている。下降ルー  
トに迷うが、1272の南の小Pから西に向  
かう尾根を下ることにする。見失いや  
すいが、わりとしっかりした踏跡があり、2時間弱で二股沢に出た。さらに、しばら  
く沢を区下り、647にて林道に上がる。



あとは単なる林道歩きと思ったが、すっぱりと林道が落ちてい  
るところが3箇所ほど、さらに、ルンゼは大体岩に埋まっており、  
結構時間を食う。清五郎沢までは、数年前の記録で車が入っていたはずなのに、似た  
ような感じで荒れていた。林道をしっかり2時間歩いて、車に帰り着いた。

【崩壊した林道】

【地形図】大杉峡谷、引本浦

【行程】

- 7/28 車止め(9:15)－三平滝上(13:00)－(14:45)梅ノ木谷出合C1
- 7/29 C1(6:10)－十字峡(11:00)－稜線(14:30)－林道付近C2(15:00)
- 7/30 C2(6:00)－P1272(8:00)－二股(10:00)－車(13:00)

